

JANU

23

January 2012

【ジャーナル】 The Japan Association of National Universities

国立大学協会情報誌

Quarterly Report

Voice

東京海洋大学客員准教授

さかなクン

支部通信

小樽商科大学／弘前大学
一橋大学／筑波大学／三重大学
京都工芸繊維大学
徳島大学／鹿児島大学

今、学生は!

鳥取大学探検部
ラフティングに自転車の旅
探検部ではやりたいことが
何でもできる

Opinion

認定NPO法人国境なき子どもたち会長

寺田 朗子



奈良教育大学／東北大学／岡山大学／東京藝術大学／京都大学
島根大学／富山大学／北陸先端科学技術大学院大学
東京海洋大学／鹿屋体育大学

特集 国立大学 — 日本の「智」を発信する

智と地域の伝統文化

【特集】国立大学 — 日本の「智」を発信する

寺田 朗子

Opinion

ボランティアで大切なのは 自分の中にも少しの痛みを持つこと

認定NPO法人国境なき医師団日本の設立に携わり、現在、認定NPO法人国境なき子どもたちの会長を務める寺田朗子さんに、ボランティア活動や国際支援活動に必要なことや問題点を伺いました。

大学紛争が将来を変えた 学生時代

私が入学した年の東京外国語大学は、例年より新入生に女性が多かったんです。それで入学式の日に先生から、「卒業してすぐ結婚すると税金の無駄遣いになるから、男子学生と同じように、得たものを社会に還元しなくちゃいけない」と言われました。悔しかったこともあって、「絶対に頑張ろう」と思いました。そして、母校の高校のフランス語の先生になると決めて、3年生の時に1年間フランスに留学しました。

ところが、1968年に帰国した

ら、大学紛争で授業が全く受けられず、そうこうするうちに結婚してしまいました。大学には、休学を含め10年在籍しましたが、在学中に子どもが2人生まれ、社会に還元する機会はないままでした。

ただ、「社会への還元」という意識は常にあつて、子育て中も通信教育などで、細々とフランス語の勉強を続けながら、世の中とつながるために同窓会の仕事などはしていました。そのうちに、外語大の先輩を通じて、日本で事務所を作るためにフランス語のできるスタッフを探していた、「国境なき医師団」を紹介されました。

社会に貢献する能力を サポートするシステム作りを

私は自分の経験から、たとえ若い時に仕事ができなくても、焦らず、いつか社会に還元しようという気持ちやチャンスをつかむ触手を常に持ち続けて、その間に自分の中身を磨いていけば、チャンスは必ず巡ってくると思っています。そして、子育て期間が何年かは人それぞれとしても、その後には社会にかかわる場を得られた時、支援をしてもらえる環境がもう少し整えられれば、能力を持つ女性が、より早く社会に貢献できるようになりますね。特に国立大学

寺田 朗子 (てらだ さえこ)

認定NPO法人国境なき子どもたち会長。1946年、東京生まれ。東京外国語大学外国語学部フランス語学科入学後、1967年にサンケイスカラシップで1年間フランスに留学。1969年結婚、1975年卒業。3児の母として主婦業に専念していた1992年、認定NPO法人国境なき医師団日本設立の際にボランティアとして参加。以後、同会長、理事を務める。理事退任後、「国境なき子どもたち」にかかわり、同法人会長として現在に至る。



の学生に対しては、社会に還元しようとする意識を持ち続けられるような教育ができ、それが実現できるといいですね。女性の社会進出について数値目標を定めたりしている話もありますが、数字というものにはあまり意味がないと思っています。

「国境なき医師団日本」から 「国境なき子どもたち」へ

現在、会長を務めている「国境なき子どもたち」は、スタートは「国境なき医師団日本」の活動から派生しました。主に、ストリートチルドレンなどの問題に取り組んできました。

恵まれない幼い子どもたちは、さまざまな団体やグループが支援をしています。しかし、身体が育って施設を出されても、字も読めない、数も数えられない15、16歳の子どもたちの面倒を見てくれるところはほとんどありません。「国境なき子どもたち」は、その子どもたちの自立、自分で収入を得るすべを身につけられるように活動しています。学校教育から始まり、絹織物の機織り職人や美容師・理髪師、車の修理工になった子どももいますし、なかには勉強に興味を持って大学を目指す子どももいます。

また、私たちの活動の種類によっては、現地のボランティア団体と手をつないで、共同で仕事をしながら、

日本の生活水準が当たり前という若者の意識を崩したい

将来はそこに事業を引き継ぐことも考えています。現地の人材を育てて、現地のレベルを上げていくことが大切ですから。

常に相手のことを考えて継続した支援活動を

ボランティア活動について、かつて「暇な時間を当てればいい」と考えている人もいましたが、それは違うと思います。無償でする場合でも、自分が請け負った仕事は必ず最後まで終える。それができない時には、誰かに託すことも含めて、責任は全うしなければならぬと思います。また、現地での仕事では、常に相手のことを考えて、相手の要望を聞きながら、自分のできるペースや範囲を心得て、モチベーションが落ちないように続けていくことが大事です。日本の社会では、まだボランティアをすることがプラスの評価にならないケースが多く、レールからはみ出た人としか思われぬことも、継続した支援活動を難しくしていると思います。

私が「国境なき医師団日本」にかわつていた当初は、現地活動に出たいという大病院の医師は、医局を辞めて活動に参加しなければならなくて、本当にその人のモチベーションに頼るしかないという感じでした。その一方、「国境なき医師団」が生まれたフランスでは、ボランティア活動に休みを取って出た場合、その人のポジションは必ず空けて待っているという社会のルールが決められたと聞きました。

現在では、日本の社会でもボランティア活動について理解されるようになってきていると思いますが、もっと国立大学などで支援体制が充実できれば、大きな力になるのではないのでしょうか。

経験を継承することで得られるものがある

何かの形でボランティア活動をしたいという学生は多いのですが、現地で活躍していい勉強をしてくる学生がいる一方で、現実には自分中心の人もいます。しかし、今回の東日



本大震災の被災地では、がれきや泥の始末などで頑張った学生もいたし、手を貸してもらってとても喜んでくれる方たちの姿も見ました。このようなきっかけで、支援の意味を、心のつながりの重さを学べるのなら、こうした行動も決してマイナスではないなと思います。

相手の求めることをしっかりと認識しながら、殊に海外で行動する時には、自分が暮らす日本の生活水準が当たり前だと思っている意識を変えて、「知」の部分も十分に活用しながら、現地の求めていることに貢献してくれたらうれしいですね。

それから、今の学生には、自分ももらったものを次に継承していくという意識をもう少し持つてもらいたいと思います。先輩は後輩へ伝えなくてはいけないものがあると思うし、後輩には聞く耳を持って欲しいのです。それは、言われた通りにしろということではなく、「取らなげや損」というぐらいの食欲で、自分の栄養にしていく気持ちがあつてもいい、ということですね。自分で経験できることは限られているのです。人の経験をもらうことによって、自分を大きく、人間としての厚みや幅を増していけるのですから。

【特集】

国立大学—日本の“智”を発信する

智と地域の伝統文化

奈良教育大学

東北大学

岡山大学

東京藝術大学

京都大学

島根大学

富山大学

北陸先端科学技術大学院大学

東京海洋大学

鹿屋体育大学



The Tradition

日本には古くから発展してきた、地域独自の文化や生活習慣があります。各国立大学は、各地域の歴史を尊重しながら研究を行っています。今号の特集では、全国の国立大学が行っている地域に根差した歴史研究、伝統文化・芸能の継承への取り組みや文化遺産の保存活動などを通じて、大学と地域住民とが共同で上げた成果や交流の姿などを紹介します。

奈良教育大学

地域の伝統文化遺産を対象とした教育・研究 ～古代建築彩色の再現

奈

良教育大学では、地域の伝統文化遺産を対象とした教育・研究を推進しています。

ここで紹介するのは、世界遺産でもある古代寺院建築に見る彩色を対象として、現地での長期にわたる調査を基本とした学術的な記録・再現の実践例です。

奈良時代、我が国に仏教の戒律を伝えるために、幾度の苦難を越えて

来日した唐の高僧・鑑真和尚が開山した唐招提寺の金堂（国宝）が、2000年から10年間にわたる全面解体修理をされました。同大学では、

律宗総本山唐招提寺、並びに奈良県教育委員会事務局文化財保存事務所からの依頼を受け、同金堂に見る彩色の現状記録図の作製と、国立文化財機構奈良文化財研究所による科学的な分析結果を交えた、学術的な彩



唐招提寺金堂の彩色再現図の製作風景

色の再現図の作製を行いました。現状記録図とは、現地での詳細な調査を基に、和紙に筆墨で描いたもので、調査した対象物と同じ素材と技法を用いて、当時の姿を表したものが再現図です。

世界にもまれな8世紀の木造建築に見る彩色は、紛れもなく正倉院宝

伝統的な技法を用いて文化遺産から多くのものを学ぶ

物に匹敵する貴重な文化遺産ですが、その姿は1200年を超える年月を経て、すっかり様相を変えており、その状況を正確に記録し、更に当初の姿を再現することは、大変な労力を伴います。

調査は、「上げ写し」法という伝統的な絵画模写技法を活用します。通常は対象物の上に直接薄い和紙などを重ね、その紙を瞬時に上げ下げすることを繰り返して、目に映る残像を重ねた紙に正確に書き写していく

ものです。この手法は東洋絵画の伝統的な学習法であり、一筆ごとに注意深く対象を観察し、また再び形を表すことで、優れた対象物から多くのことを学習することができます。

同大学では、地域の諸機関との連携・理解の下、このような調査に学生も同行し、実地で文化遺産に触れ追体験させています。現状記録図と再現図、並びに報告書を後世に残すことその他に、可能な限りそれらの工程を後進に体験させ、世代から世代へと、人を介して着実に優れた文化を伝承していくことも念頭に取組んでいます。まさに、文化遺産が豊かな地域に立地する同大学ならではの、特徴のある取り組みであると言えます。



唐招提寺金堂の身舎支輪裏板再現の一部

「上げ写し」法によって描かれた身舎支輪裏板の下図の一部



「上げ写し」法によって絵画を模写する様子。対象物を直接目で観察しながら（写真上）、少しずつ上に重ねた和紙などに描き写していく（写真下）



東北大学

日本独自の歴史文化を再評価する 「和算資料データベース」と展示会の試み

2

010年に話題になった映画『武士の家計簿』でも紹介された江戸期の数学「和算」は、日本独自の発展を遂げた学問・文化として、近年再評価の動きが各方面で出てきています。その原動力となったのが、東北大学の「和算資料データベース」（旧・和算ポータル）とい

つてよいでしょう。

この「和算資料データベース」は、東北大学附属図書館が所蔵する世界最大の和算書コレクションを電子化し、ウェブで無料公開しているものです。2003年度に公開したこのウェブサービスは、市民に和算資料に親しむ機会を提供し、近年の和算研究に大きな貢献をした事業として、2010年の日本数学会出版賞を受賞しました。今では、多くの研究書や入門書、そして中学校の数学の教科書にも和算資料の画像を提供し、社会貢献の役割を果たしています。

また、この資料の電子化とともに、2004年には「江戸の数学」、2008年には「はっぴい、さんぼう—和算の世界へようこそ!—」という和算資料の展示会を開催し、多くの



図書館展示会で展示品の解説を行う図書館員



多くの教科書に掲載されている「塵劫記(じんこうき)」のねずみ算

観覧者を集めました。もともと仙台藩では和算が盛んだったこともあり、地域の人々の関心を高めています。東北大学は東日本大震災からの復興・復興のさなかにありますが、この日本固有の学問・文化である和算資料の電子化を、継続的に実施しています。

岡山大学

地域とともに 巨大古墳の謎に挑む

岡

山大学は、豊かな地域文化が栄えた吉備の中心に位置しており、地の利を生かして以前から遺跡や文化財の調査に取り組んできました。

2005年度には、それまでほとんど手を付けられていなかった全国第4位の規模を誇る巨大な前方後円墳・造山古墳の調査に着手しました。この調査では、GPSや最新の測量器械を駆使して、学生が中心となって墳丘上の約12万地点を計測し、大規模古墳としては全国初の詳細な墳形データを取得することができました。

2008年度からは、長く論争が続いている造山古墳の周囲を巡る濠の有無を確認するため、周辺部の発掘調査を実施し、ついに周濠と外側の周堤を発掘することができました。

また、近辺の千足古墳では、調査の一環として石室の三次元計測を行うために事前に水を抜いたところ、装飾の劣化が判明し、地元教育委員会や文化庁を中心に、保存のための調査と工事が進行中です。

地域に開かれた発掘調査を目指し、学生が中心となって説明会などを実



造山古墳の調査区で行った現地説明会



空から見た造山古墳

施していくうちに、地元から「造山古墳蘇生会」が誕生し、遺跡のボランティアガイドも組織されました。更に、地域の文化財などについて学ぶ「鴨屋塾」も開催されるようになり、古墳調査をきっかけに文化財の保護と継承を目指す地域の活動が活発化しています。

調査に加わった学生は、卒業後、各地で新しい測量方法やコンピューターを用いた考古学の普及に貢献しています。

東京藝術大学

GTS 観光アートプロジェクト2011 イノベーションプロジェクト

東

東京藝術大学は、2010年度から3年間の計画で、GTS 観光アートプロジェクトを展開しています。開催されるさまざまな企画の一つとして、2011年度は、「社会と連携した教育プロジェクト」と

いう観点から、東京藝術大学美術学部（デザイン・陶芸・ガラス造形）と台東区、墨田区とで協働し、観光を目的としたイノベーションプロジェクトを計画、実施します。同プロジェクトでは、両区に古く

から伝わる、代表的な江戸土産である和菓子に着目し、その観光資産としての可能性を再検討します。ここでは、和菓子の一つの幾何形態としてとらえ直し、デザイン、陶芸、ガラス造形など、各専門領域の特性を生かしながら、器や台、皿のほかにポスターなどを制作し、伝統の枠を超えた新たな和菓子のしつらえを、地域の産業へ、新しい視点からの提案を試みます。



白磁とガラスの器で演出した江戸伝統和菓子

京都大学

船鉾町町衆によって作られた 祇園祭船鉾車輪

京

都大学生存圏研究所では、1892年に製作され、2008年まで117年間にわたり祇園祭船鉾に使用されていた車輪を祇園祭船鉾保存会から寄託を受け、木質ホールエントランス及び材鑑調査室において展示保存しています。今後、学術資料として樹種や材質、強度などを調べ、データベースとして公開する予定です。

なお、木質ホールに展示している車輪は前輪、材鑑調査室のものは後輪です。樹種同定の結果、穀（こしきⅡ軸受）部材はケヤキ材、大羽・



材鑑調査室で展示保存されている後輪

小羽・幅などその他の部材はアカガシ材で作られていることが分かっています。

島根大学

登録文化財・

島根大学旧奥谷宿舎の保存活用

島

根大学では、1924年に外国人教師宿舎として建てられた、国登録有形文化財「島根大学旧奥谷宿舎（旧制松江高等学校外国人宿舎）」を保存修復し、サテライトミュージアムとして活用しています。ここでは、城下町松江の歴史・文化に関する研究成果展示を始め、各研究室、学生サークル、市民グループによる、地域に根差した研究発表作品展、教室、庭園での園芸活動などが活発に開催され、大学と地域をつなぐ交流の場となっています。



国登録有形文化財・島根大学旧奥谷宿舎

富山大学

伝統技能の現代化を目指す デザイン・知財のマネジメント戦略

富

山県には高岡銅器、高岡漆器、庄川挽物木地、井波彫刻、越

中和紙の5つの国指定伝統的工芸品があり、伝統的工芸産業の集積地であるといえます。なかでも銅器は、美術鋳物生産においては全国の90%と高いシェアを占めています。他地域の伝統的工芸産業同様、規模は縮小傾向にあり、技の伝承が危ぶまれる事態になっています。

富山大学では、このような状況の改善を目指し、伝統的工芸の職人技の伝承、育成、知的財産保護、現代化を図るため、2008年度からデザインマネジメント体制の構築を進めています。具体的には、伝統的機能の科学的解明とデータベース化、デザイン力を生かした現代化、技のブランド化に取り組んでいます。

金属と音の関係の解明

高岡では美術鋳物だけでなく、梵鐘やおりん、磬子（けいす）といった仏具も多く生産されています。これらの製品製作では、良い音を出すために伝統的な職人技が用いられて

います。

富山大学では、銅器と関連が深い「音」をテーマに据え、梵鐘作りから「音」の技能を抽出・分析する取り組みを行いました。梵鐘の小型試験体を用いた実験では、鋳型の作り方と金属の配合を変えて鋳造を行い、科学的データを計測採集しました。採集したデータと職人が評価する梵鐘の音との相関関係を見ることで、良い音がどういった科学的基準や要素から成立するかを導き出すことができます。

デザイン力を生かした現代化の試みにおいても、音を作る技能に着目した、新たなコンセプトを開発しました。素材、形状、厚み、硬度などの関係性から、小物製品であることを特徴とする、固有の音を作れる仕組み・設計システムの特許を出願しました。今後、地元企業やデザイナーと協同し、その特性を生かした製品化を目指して開発を進めていきます。

伝承方法の構築

また、職人技の伝承と知的財産保

護を目的に、データベース化への取り組みも行っています。試験的プロジェクトとして、工業製品の品質管理に用いられるQC (Quality Control) 工程表の作成方法にのっとりて梵鐘の製造過程を記述し、データベースを構築しました。この方法や考え方を用いて、現在は他の技術に



梵鐘の小型試験体を作製するために金属をとくす

制作した小型試験体を用いて「音」の科学的データを計測する

についてもデータベース化を進めています。データベースの作成方法のマニュアルを、大学から地域に引き継ぐことで、産業全般を対象とした伝承の仕組みを整えていきます。

伝統的職人技のブランド化

さらに、地域固有の文化を守り、産業の活性化を図る上で重要な伝統的機能の伝承や現代化について、地域の行政・産業団体・大学が連携し、問題解決に取り組むための組織として「高岡地域 職人技のブランド化推進協議会」を発足させました。産学官が連携し、職人技のブランド化による価値化を進めていきます。



産学官が連携し、職人技のブランド化を目指す



北陸先端科学技術大学院大学

伝統工芸産地の将来を担う リーダーを育成する

石 川県は、国指定の10品目を含め、伝統的工芸品が36もある伝統工芸王国です。

その石川県にある北陸先端科学技術大学院大学では、2007年度から「石川伝統工芸イノベータ養成ユニット」事業を進めており、九谷焼加賀友禅など、石川県の伝統工芸産業の次代を担うイノベータ(革新者)を育成しています。伝統工芸産業に従事する作家や職人、問屋はもちろんのこと、伝統工芸を支援する行政マンや伝統工芸ファンの市民も参加しています。主に社会人を対象とする教育プログラムでは、受講者が現状分析を基に自分の考えをまとめ、



友禅染の特殊な技法で本草に直接絵柄を描いたシステムバインダーの試作品について、ディレクターと議論する受講生

商品企画・開発・販路開拓や地域計画の策定を行います。

このプログラムで学んだことは、産地や自治体の実務に生かされ、新商品開発、産地振興、コンペ入賞など多くの成果を上げています。

鹿屋体育大学

「ハマ投げ」の再生を目指して

薩

摩の「ハマ投げ」は、2組に分かれた競技者が中央線を挟んで相対して縦列になり、「ハマ」(木の円盤)を「ポット」(木の棒)で打ち合うという遊戯です。ハマ投げは、薩摩藩に固有の教育組織「郷中

教育」の中で、武芸的鍛錬を兼ねて行われていました。明治期以降も「学舎」の教育に受け継がれ、薩摩の勇壮な精神を今日に伝えています。

鹿屋体育大学では、この薩摩の伝統遊戯の形態と変遷、独自性と文化

東京海洋大学

地域に開かれた交流の場をつくる 「明治丸海事ミュージアム事業」

東

京海洋大学越中島キャンパスには、重要文化財「明治丸」が保存されています。「明治丸」は、国民の祝日「海の日」の起源となった明治天皇の奥羽・北海道巡幸の際に、明治天皇が御乗船された船です。また、日本の小笠原諸島の領有権確定の際にも重要な役割を果たすなど、近代日本の発展に数々の足跡を残した記念すべき船でもあります。

「明治丸海事ミュージアム事業」は、「海洋基本法」の理念の下、近代日本の礎を築いた「明治丸」を中心に、「海洋立国日本」の次世代を担う青少年の育成・海事意識の啓発、海事産業への理解促進、海事文化の拠点

的意義について、歴史的、文化人類学的研究を進めています。更に、生涯スポーツとしての伝統遊戯の再生と発展という観点から競技法を検討し、毎年、鹿児島市破魔投げ保存会との共催で「鹿屋体育大学学長杯破魔投げ大会」を開催して、その様子をホームページ上で公開するなど、同遊戯の実践と普及活動を行い、研究成果を発信しています。



正式に同大学に移管された後、技業訓練船として改装された1898年当時の姿に戻す、復元プロジェクト竣工披露時(1988年)の明治丸

形成を図り、海事の歴史や先端海事技術を「学ぶ場」、海事社会及び地域に開かれた大学としての「交流の場」をつくることを目的に設立された事業です。「明治丸」の修復と周辺地域の整備に当たり、現在募金活動をを行い支援を募っています。



小学生から高齢者まで参加した鹿屋体育大学学長杯破魔投げ大会

大自然から頂いた
「ギョギョッ、びっくり！」とっぴり
感動をそのまま伝えたい

Voice

“発信する人”からのメッセージ

さかなクン

(東京海洋大学客員准教授)

さかなクンは、お魚の生態や特徴について学んだことを、いろいろな方にお伝えしていますが、時々「さかなクンって反応がオーバーじゃない？」と言われるんです。でもこれは、例えば大学の先生から「魚の脂は、回遊エネルギーや生理作用に大切なので、エサのプランクトンや小魚が重要なんです」と教えて頂いて「ギョギョッ、びっくり！」とうれしくて驚いた時の感動からくる自然な反応なのでギョざいます。

難しい専門用語や専門的内容など分からないことについては、客員准教授をさせて頂いている東京海洋大学の先生方などに、直接研究室にお伺いしたり、電話でお尋ねしています。すると、とても丁寧に分かりやすい言葉で教えて頂けるので、それらを自分なりに理解してから、絵なども使って表現するように努めています。また、お魚には種類や大きさ、季節や生息する地域によってそれぞれのおいしさや栄養がありますが、文献ではなく実際に見たり、

触ったり、味わったりして、自分自身が五感で学ばないと、その魅力をお伝えできないと思っています。

さかなクンにとっては、東京海洋大学の憧れの先生方、漁師さんや市場の方々、釣りに詳しい釣り好き少年など、周りの方々が先生なんでギョざいます。絶滅種とされていたクニマスクニマスの生存確認も、多くの先生方のご協力のおかげで、皆さんとギョ一緒に幸せと感動を頂きました。

これからも感動の日々を送らせて頂いている恩返しに、多くの方にさかなクンが学んだことをお伝えし続けたいのでギョざいます。

さかなクン

小学校低学年の時に、友人の描いたタコの絵を見て感動してから、魚の生態や調理法などの豊富な知識を身につける。1993年に出場したテレビ番組をきっかけに、「さかなクン」として、子どもたちを中心に、魚や自然への興味を引き出す講演や著書の執筆など幅広く活躍中。2006年、東京海洋大学客員准教授に就任。

支部通信

全国の国立大学が取り組む新たなプログラムや地域に密着した研究、ユニークな活動など、新鮮な話題を各支部からお届けします。

一橋大学（東京支部）

一橋大学兼松講堂を活動拠点とする
プロフェッショナル・オーケストラが誕生

一橋大学は、2010年に創立135周年・国立（くにたち）移転80周年を記念して、同大学卒業生の宮城敬雄氏が代表兼常任指揮者を務めるプロフェッショナル・オーケストラ「国立（くにたち）シンフォニカー」が、「一橋大学兼松講堂レジデントオーケストラ」として兼松講堂を拠点に活動する協定を結びました。

同年、ピアノ独奏者としてオリビエ・トリエンドル氏を迎え創立記念コンサートを、2011年には定期演奏会『ヨーロッパ名曲の旅』を開催しました。さらに10月には、東日本大震災の被災地支援の一環として、東北大学の全面的な協力の下、仙台でチャリティーコンサートを行い、被災者1000人を無料招待しました。



一橋大学兼松講堂で行われた演奏会

小樽商科大学（北海道支部）

創立100周年
記念式典を開催

小樽商科大学では、7月8日に創立100周年を記念して「小樽商科大学創立100周年記念式典」を開催しました。式典には海外協定校の来賓を始め、経済界、企業、卒業生や教職員 OB・OG 及び同大学教職員など約400人が参加し、盛大に100周年を祝いました。

小樽商科大学は、1911年に官立小樽高等商業学校として創設され、1944年に小樽経済専門学校に改称、1949年に大学に昇格しました。

創設以来、初代校長の渡邊龍聖氏が掲げた「実学、語学及び品格」の育成を教育理念として、現在までに経済界や学界などさまざまな分野に人材を輩出しています。



式辞を述べる山本真樹夫学長

筑波大学（関東・甲信越支部）

未来構想大学としての
ブランド戦略の推進

筑波大学は、自らを「開かれた大学」、「学際融合・国際化への挑戦」を建学の理念とする未来構想大学と位置付け、スローガン「IMAGINE THE FUTURE.」を発信しています。

その一環として、多数のテレビCMを手掛ける、東京コピーライターズクラブ副会長の一倉宏氏と、NHKなどの番組に楽曲を数多く提供している作曲家・吉川洋一郎氏の2人のOBが、2010年にメッセージソングを制作し、学園祭などでお披露目しました。更に、NHKアナウンサーの青山祐子氏やコンサドーレ札幌の中山雅史氏など卒業生の協力を得て、ミュージックビデオDVDを作成し、学生、保護者、地域の関係者を中心に、積極的に広報しています。



ミュージックビデオ DVD 撮影中の元柔道世界チャンピオン・山口香准教授

弘前大学（東北支部）

「科学者発見プロジェクト」
大学研究者と児童生徒による共同研究

弘前大学では、2008年度より青森県内の小・中・高の児童生徒から日常の小さな「疑問や興味、アイデアなど」を募集し、同大学研究者との共同で、謎の解明や関心事を探索するプロセスを体験・学習する「科学者発見プロジェクト」を行っています。2011年度は発展性・意外性・独創性に優れた11件が選ばれ、共同研究体験を行っています。児童生徒たちにとって大学研究者と共同研究体験を行うことは、楽しく貴重な経験になるとともに、大学をより身近に感じる良い機会となっています。また、同大学研究者も児童生徒の思いもよらない視点での疑問やアイデアによって刺激を受け、同プロジェクトは双方向的な効果を生んでいます。



「しあわせプロジェクト2〜よつ葉を増やすために、さらなる謎に迫る研究〜」で、植物のDNAを抽出する様子

徳島大学 (中国・四国支部)

国際的連携となった LED総合フォーラムを開催

徳島大学では徳島県が策定したLEDバレイ構想に協力し、LED光の生命効果の体系的解明と応用に向けた研究に、医工連携、農工食連携で取り組む「LEDによるライフイノベーション革新的特色研究プロジェクト」を推進しています。その一環として、徳島県、徳島市と共催する「LED総合フォーラム」を2011

年に徳島市で行いました。

今回はLEDの医療応用と宇宙船での活用について、アメリカ・ヒューストンのベラー医科大学、JAXAと中継して講演を行いました、国際連携へと発展させました。同時に、LED関連研究のポスター発表及び企業の製品展示、LEDファッションショーも実施しました。



地域の高校生による LED ファッションショー

三重大学 (東海・北陸支部)

地域社会との連携を強める場 「三重大学地域連携プラザ」を開設

地域圏大学として活動している三重大学は、2011年、津センターパレス(津市)に「三重大学地域連携プラザ」を開設しました。

「三重大学地域連携プラザ」は、大学と地域との連携を強めることを目的とし、同大学の広報誌の展示や配布、大学紹介のパネル展示、産学官連携による

成果の紹介などを行っています。プラザ内には机や椅子を設置し、市民がゆっくりと閲覧できるとともに、休憩場所としても機能しています。

今後は、対談や説明会、展示会など、イベントの計画もあり、地域と大学のつながりを更に強める役割を担っていきます。



「三重大学地域連携プラザ」の様子

鹿児島大学 (九州支部)

チャレンジ精神を持った人材を育成する 「南米における進取の気風研修」を実施

鹿児島大学は「進取の気風」(商標登録)に富む人材の育成を目標に、特に学生の海外研修に力を入れています。2011年度はブラジル及びパラグアイにおいて、日系移民の協力を得て、「南米における進取の気風研修」を行いました。

学生たちはサンパウロ市で、

鹿児島県人会によって行われた移民の歴史の講義を受け、またイツ市やソロカバ市では、現地の産業や歴史を学ぶとともに、地元住民や大学との交流を図りました。さらに、日系移民が経営するパラグアイのイグアス移住地で農場体験実習を行い、学長とともにイグアス移住地入植

50周年記念式典にも参加しました。

学生たちは、ゼロから現在の地位を築いた日系移民の歴史と生活に触れ、感銘を受けて帰国しました。

サンパウロ市で開かれた鹿児島県人会との交流会



京都工芸繊維大学 (近畿支部)

京都市役所とイタリア・ミラノで 「エコシャツ」の展示会を開催

京都工芸繊維大学は、「文化芸術都市京都の文化遺産の保存・活性化を支える人材育成プログラムの開発・実施」事業の一環として、京都市役所本庁舎とイタリア・ミラノで、「エコシャツ」の展示会を開催しました。現代の生活に合わせてデザインすることで、伝統工芸を活性化させることが目的です。オーガニックコットンや浴衣地で作った「エコシャツ」には、紬織りの「波に千鳥」や「流水にとんぼ」、京絞りの「朝顔」などの伝統的模様をあしらいました。

ミラノでは、朝顔形の清水焼のコップや、エコシャツと同じ朝顔柄の浴衣地の和傘なども展示しました。



京都市役所本庁舎に展示された「エコシャツ」

今、
学生は!

ラフティングに自転車の旅 探検部ではやりたいたいことが何でもできる

1970年に創部され、41年の歴史を持つ鳥取大学探検部。現在はラフティングに力を入れており、国内最大級の大会で2連覇を成し遂げました。来るラフティングの大会に備えて合宿中の岐阜県長良川の川辺で、大自然と触れ合う探検部の魅力を語ってもらいました。

やらされている感じのない
自主的な雰囲気の魅力

——探検部の活動を教えて下さい

堂前 部員は約40人です。全員の名前を覚えられるので、ちょうどいい規模ですね。主な活動はラフティングと洞窟探検と登山です。ラフティングは毎朝、大学近くの湖で練習。そして、月に1回か2カ月に1回の割合で洞窟探検に行きます。昔は測量をしていたようですが、今はもっぱら整備されていない洞窟を探検しています。整備されていないといっても、洞内地図がある洞窟です。それ以外の週末には鬼ごっこなどのちよっと変わったことをしています。

岡本 週末の活動を決めるのは、毎週火曜日の部会です。ラフティングの大会が近い時期は、部の活動とは別にチームごとに練習をしています。堂前 その他に、年に2回合宿をしています。2010年の夏合宿では、「チャリ旅」という自転車旅行をしました。大学を出発して境港市まで距離にして約240キロを1日で走破しました。それもママチャリで。



全国でも数少ない女子チーム「トリん娘」。男子チームとの体力差をチームワークでカバーする



左から和田さん、堂前さん、岡本さん

鳥取大学探検部

鳥取大学 農学部生物資源環境学科 3年

部長 **堂前 瑛**

副部长 **和田 ちづる**

鳥取大学大学院 農学研究科
国際乾燥地科学専攻 修士1年

副部長 **岡本 夏樹**



全国制覇を成し遂げたチームのメンバーがそろってエース艇。息の合ったパドリングを見せる

さらにそこからフェリーで隠岐の島に渡りました。

——ラフティングの大会で2連覇を達成されましたね

岡本 日本リバーベンチャー選手権といつて、毎年5月に群馬県の水上峡で行われる大会です。僕たちのチームは昨年（2010年）と今年、総合優勝することができました。もう一つ、10月に今回合宿をしているこの場所で「長良川WFF（ホワイ トウォーターフェスティバル）」という大会があるのですが、この大会でも2009年に優勝しました。国内ではこの二つが出場者の多い大きな大会です。

大会には、スプリントという短距離のタイムを競うもの、ヘッドトゥヘッドといって2艇で一緒に下っていくトーナメント形式のもの、川につるしたゲート（棒）を潜っていくスラローム、そして長距離のタイムを競うダウンリバーという4種目があって、各種目の総合点で順位が決まります。僕たちはスプリント系が良くて、テクニックス系が苦手です。特にスラロームが一番難しい種目なので、もっと練習が必要ですね。

——探検部の面白さはどこですか？

岡本 もちろん大会のあるラフティングを頑張つて練習している人はいませんが、普通の体育会系の部活みたいに、やらなくてはいけないという

感じはなくて、やりたい人、勝ちたい人が集まって自主的に活動している雰囲気がとてもいいですね。もちろんラフティングをしない人たちもいますが、活動はラフティングだけじゃありませんし、そういう人たちとも一緒にいられるのが、探検部らしいところかなあと 생각합니다。

和田 活動以外の生活もずっとみんなと一緒になので、もう家族以上のようになっています。授業でも会いま すし、週末も会う。食事移動も寝る時もずっと一緒です。

堂前 やりたいことを何でもできるのが面白いところです。探検が好き ならば自然に集まってる感じなので、部長をやっている、40人 を束ねるといふ感覚はないですね。



合宿中の食事はすべて自炊。この日の昼食献立はキーマカレーだった

——一番楽しかった活動は何ですか
岡本 ラフティングで優勝するのもうれしいんですけど、先ほども話に出た、自転車で隠岐の島まで行ったチャリ旅が楽しかったですね。

「何でもやってみよう」というチャレンジ精神を学んだ

——探検部に入って学んだことは？

岡本 普通に勉強する以上のことを学んだと思います。僕も2年前には副部長をしていたので、人をまとめる大変さを探検部で学びました。

和田 私はチャレンジ精神です。先輩はむちゃなことでも、「よしやってみよう」と実行します。今までこんな経験はなかったので、やってみようという気持ちの大切さを学びま



今回の合宿（2011年9月25日～29日）には23人の部員が参加した

した。
堂前 部長になって部員の健康状態など、全体を把握しなければならなくなつたので、今、その目を養っているところです。

——今後の目標を教えてください

岡本 ラフティングの世界大会に出られるレベルまで頑張りたいです。

和田 4年前から女子6人で「トリ ン娘」というラフティングのチームを組んでいるので、このチームで大会の上位に食い込みたいです。ラフ ティングは結構力が必要な競技です し、成績は男女別ではないので、毎 年上位は男子チームなんです。今年 の「長良川WFF」がこのチームで最後の大会になりそうなので、い い結果を残せるように、なでしこJ APANをお手本に頑張ります！

それから11月にうちの大学が主催するラフティングの大会「湖山カッ プ」があるので、副部長として大会の成功も目標にしています。

堂前 僕も部長として「湖山カップ」の運営をしつかりすることが当面の目標です。全国の大学が来てくれま すから楽しい大会にしたいですし、 けがなく成功させるように頑張ろう と思います。

*取材時（2011年9月27日）に目標として挙げた「長良川WFF」（全43チーム参加）で、鳥取大学探検部は男子チーム「スベクトラ」が優勝、女子チームの「トリン娘」が6位（女子チーム中1位）の成績を収めました。

JANU Quarterly Report Vol.23 January 2012

編集・発行／一般社団法人 国立大学協会
〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋2-1-2
TEL:03-4212-3506

表紙：認定 NPO 法人国境なき子どもたち会長
寺田朗子

撮影：東京藝術大学 美術学部准教授
鈴木理策



一般社団法人 国立大学協会

The Japan Association of National Universities

<http://www.janu.jp/>